



公益財団法人愛知県文化振興事業団

2017年12月17日(日)
愛知県芸術劇場
(公益財団法人愛知県文化振興事業団)
広報・マーケティンググループ
☎ 052-955-5506

速報

<Press Release>

報道各位



AAF 戯曲賞

The drama competition by the Aichi Arts Foundation

受賞作品決定についてのお知らせ

平素より愛知県芸術劇場の活動につきまして、ご理解・ご支援賜りありがとうございます。
さて、見出しのとおりプレスリリースを送付いたします。
ご多忙中恐縮ですが、ご一読の上、ご取材等いただければ幸いです。

約3時間半に渡る白熱した議論の末、大賞・特別賞が決定！

本日、12月17日(日)に開催しました「第17回AAF戯曲賞」の公開審査会において、大賞および特別賞が決定しました。

今回は、全国から89作品のご応募をいただき、現代の演劇界をリードする篠田千明(演出家、作家)、鳴海康平(「第七劇場」代表、演出家)、羊屋白玉(演出家、劇作家、俳優、「指輪ホテル」芸術監督)、三浦基(「地点」代表、演出家)の4名が審査員として参加。選考にあたり、審査員が全作品を読み終えた後、一次、二次、公開審査と3回におよぶ審査を実施。公開審査では、観客の前で熱い議論を繰り広げた末、大賞(1作品)に『シティⅢ』(カゲヤマ气象台)、特別賞(1作品)に『白痴をわらうか』(山内 晶)が選出されました。大賞受賞作品の『シティⅢ』は、2018年度の劇場主催公演として、愛知県芸術劇場小ホールにて上演いたします。

AAF 戯曲賞とは…

2000年より開始した、上演を前提とした戯曲賞。当劇場主催のもと、戯曲の審査と受賞作品の上演を毎年行う。作家と演出家・作品と観客が出会い、価値観を創出。15年より「戯曲とは何か」という提題を設け、演劇の可能性に挑戦し続けている。

お問合せ

愛知県芸術劇場(公益財団法人愛知県文化振興事業団)

広報・マーケティンググループ(武石) 企画制作グループ(山本)

〒461-8525 名古屋市東区東桜1-13-2 ☎ 052-955-5506 Fax 052-971-5541

Mail: mkt@aaf.or.jp

http://www.aac.pref.aichi.jp/



右から三浦 基、羊屋白玉(審査員)、山内晶(特別賞受賞者)、篠田千明、鳴海康平(審査員)。

大 賞(1作品) | 『シティⅢ』 カゲヤマ气象台 作品概要 (応募者原文)

『シティⅢ』は2015年より継続して上演された『シティ』三部作の最終章として書かれた作品ですが、前二作と直接的なつながりはなく、独立した作品でもあります。

舞台は文明が一度荒廃し、再興したはるか未来です。今作は、「希望」をモチーフに執筆されましたが、希望を持てるなら想像もつかないほど遠い、私たちが何度も何度も死んだ未来でないといけません。気の遠くなるような距離でかたでないと希望は考えることはできない。それは絶望的なことでもあります、しかしそれが実感でした。

未来について考えたとき、それは物語のことでもありました。物語というのは、ただフィクションというだけでなく、先行した想像力があり(まったくの無からは物語は生まれず、「すでに知っている何か」と反応して物語は認識されます)、言葉の上を漂いながら他者に届きます。物語は未来があるからこそ機能し、常にそのベクトルは未来の方を向いているのではないかと。未来が存在しないなら、物語は必要とされないのではないかと。なぜなら、それは生きていくための知恵であり、常に「これからどうしていくか」という問いかけを孕んでいるからです。また、別の言い方をすれば、物語について私達が「すでに知っていること」というのは、もしかしたら未来からやってきている。それは経験でも教わったことでもなく、なぜか「すでに知っている」からです。私達が生まれたときからすでに死ぬことを知っているように、ある種の物語と言うのは「すでに知っている」ものとして未来からきている。こちらから未来に向かっていく要素も、未来からこちらに向かってくる要素も、同時に物語の中にはある。

未来と希望と物語と絶望が同時にひとつあることができるのは演劇ではないかと思えます。それは特殊なことではなく、演劇は当たり前にならぬのではないかと。そういう意味でも、至極普通の劇を書こうと試みました。

カゲヤマ气象台 プロフィール

2008年、「sons wo:」を設立。以降、劇作・演出・音響デザインを主に手掛ける。現在は東京と浜松の二都市を拠点として活動している。13年、「フェスティバルトーキョー2013 公募プログラム」参加。同年、『芸創 CONNECT Vol.6』最優秀賞受賞。15年よりセゾン文化財団ジュニア・フェローに選出される。

特 別 賞(1作品) | 『白痴をわらうか』 山内 晶 概要・解説 (応募者原文)

明るい事を言いつづけないと破滅するような気がする『躁』の閉塞感を具現化した戯曲です。

「たかがその程度でそんなに悩むな」という言葉は多くの人を殺すように思います。また知識のある人間は、自分より知識のない人間の孤独を軽視するように思いました。以上の内容を、難しく言わないように、皮肉をつかって、サミュエル・ベケットの『ゴドーを待ちながら』の戯曲展開にあてはめようと思いました。



山内 晶 プロフィール

「演劇ユニット AnK (あんく)」主宰。歌舞伎普及劇団「歌舞伎女子大学」メンバー。両団体の全作品の脚本・演出を担当。青年団演出部所属。自身での脚本演出作品のほか、アイドル主演映像、演劇作品への脚本を提供している。AnK『ヘナレイダー』にて2014年度佐藤佐吉賞最優秀演出賞受賞。歌舞伎女子大学にて、国立文楽劇場とのコラボレーション作品を発表した。AKB ShortShorts project 映画『9つの窓』にて脚本提供をした『candy』が、ベスト作品大賞受賞。